
空

遊崎（ゆさき）

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空

【Zマーク】

「Z6546」

【作者名】

遊崎

【あらすじ】

生きていたいけど、もう何もしたくない。

それならいっそ、死んでしまおうか？

空に臨む 場所に立つ

見下ろす地に人が群れる

僕を見上げ わめき立てて右往左往している

僕はもう眠いんだ どうか静かにしてよ

飛び立つよ

空に向かい地を蹴り高く 飛ぶのを

縛られない、自由指し 青い空へ駆けてく

田も眩む この高みから

見渡せる この世界

青く白く澄んでいて 黒く灰に濁んでる

僕は何をしたいんだ？ どうか教えてくれよ

わからない

生きていきたい でも無氣力に墜ちていく

辛すぎて、傷だらけのこの身体で駆けてく

助けてよ 助けてよ

僕をひとりにしないで

笑いたい 生きていいたい

今なら間に合うのかな

飛び立つよ

君のもとへ 笑いあえる世界へ
ひとりじゃない、みんながいる

だから僕は駆けてく

君と共に駆けてく

『K』（後書き）

解釈はひとそれぞれがいいな、と思こます。

これをもとにした小説を書いていきます。
はじめてでまだ学生なので、駄文になると思いますが、厳しくアドバイスしていただければ嬉しいです。

遊崎おながきと申します。

これからよろしくお願いします。

『屋上』（前書き）

高校生、特に何の不自由もなく暮らしていた『僕』ある日、自分が死にたがっていることに気づいて……

「ここはこの街で一番高いビルの屋上。

もちろん観光なんかしにここに来た訳じゃない。

なぜなら僕はフェンスの外にいるからだ。

僕は死ぬためにここへ来た。

別に恋人に振られた、とか、会社を首になつた、とか、そういう訳じゃない。

ていうか僕はまだ高校生だし。

なんだか、全てがどうでもよくなつていて。

大学受験とか、就職とか。

就きたい仕事だってあるし、友達と残り少ない青春を謳歌したりしたいけど、それよりも「死にたい」という欲望の方が勝っている。

要は優先順位の問題なのだ。

もう生きていけないとと思う程落ち込むような出来事もない。

昨日、やつと自覚した。自分が死にたがっていることを。

今までずっと感じていた気だるさの原因はこいつだったのだ。

謎が解けて少しすつきりした。

地面に目をやると、群れている人々が見える。

立ち入り禁止のここに人がいて、フェンスの外に立つて下を見ている。

何をしようとしているのかは容易に想像できるだろう。

右往左往して、「止めるんだ」、とか叫んでいる。

耳を貸す気はさらさら無かつたのだけれど、僕はそのまま同じ場所に立っていた。

このまま飛び降りれば怪我人が出るかもしれないし、下手なことをすれば死に損なう。

それは美しくない。

死に損なつて後遺症で一生寝たきり、みたいな痴態を晒すのは絶対に嫌だ。

それに、他にも理由はあった。

風が、太陽の光がとても心地好かつた。

死ぬ間際つて言つのは、こんなに安らかなのか。

・・・自殺なのに、安らかでいいのか？

そんな下らないことを考えながら、あたりを見回す。

当たり前のことだが、空ばかりが見える。

少しだけ雲の浮かんだ、青く澄んでいる空。

突発的な自殺なのに、とても綺麗な空だつた。

意外と僕は、運がいい方なのかもしれない。

つていうか、いい加減下の人にいなくなつてくれないかな・・・

そう思ったその時、後ろで扉が開く音がした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6546j/>

空

2010年10月15日18時55分発行